

令和2年度 自己評価・学校関係者評価結果公表シート

学校法人 子宝幼稚園

1. 本園の教育目標

“よく遊び よく学ぶ 瞳輝く子ども”を育てる為に、子宝を愛情をもって、優しく厳しく
教え育む。教職員が、チームワークを大切にしながらも、子どもの為に切磋琢磨し、
幼児教育に自信のもてる幼稚園を目指す。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・3歳の教育体制の変更に伴い、園則変更を実践した
- ・保育環境の充実
- ・新型コロナウイルス対策
- ・50周年記念への準備

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
・3歳の教育体制の変更に伴い、園則変更を実施した	大阪府が推進している 25 人学級要素へと移行をする為に園則変更を実施した。その結果、R3.4月より満3・3歳6クラス150人、4歳4クラス140人、5歳5クラス175人。総定員が465人の幼稚園となった。教育の質を保つ為に、担任以外に正規の先生6人、教育補助の先生を5人とした。
・保育環境の充実を目指す	コロナウイルスによる休園をも利用して、全教室の棚の交換や廊下、プール等のペンキの塗り替え、遊戯室の改修、正門にハトのオブジェを設置。更にマイクロバス2台を新車に入れ替え、ハイエース1台を加え、計4台とした。送迎範囲を充実させると共に密を和らげることもなった。
・新型コロナウイルスに関して	4,5月が緊急事態宣言発令の為、休園のスタートとなった。その後もうがい、手洗い、換気等に配慮をしながら、保護者の御理解を得て、日々の保育、各行事を変更、縮小をして無事に過ごせた。
・50周年を控えて	園の方針・歩みを記録や写真で見直すと共に1つの集大成として、記念誌の作成やその他、じっくりと計画を進めつつある。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

コロナ禍の中で、日々の活動や行事に制約や変更を余儀なくされ、厳しい状況であったが、先生達が臨機応変に一致団結をして新たな良き形も作れたと考える。定員変更や園内整備も計画的に順調に進み、大きな成果があった一年となった。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
50周年を迎えての感謝	今迄に園を巣立った子ども達、お世話になった保護者や先生達、そして地元の方々に対し、50年を迎えられた事を感謝したい。そして、その気持ちを何らかの形で表したいと計画している。
人材の確保と育成	待機児童対策により、近隣に次々と認定こども園や小規模園が設置されつつある。その中で、私学助成園である「子宝幼稚園を」と望んでくれる園にするには？制度の問題もあるがしっかりとした幼児教育を実践する為に良き先生の確保と育成に全力を挙げたい。
指導計画や行事の見直し	コロナウイルスという災いの中で、子どもや保護者の思いを改めて見直すと、新たな発見が沢山あった。更に、変化する社会や子どもの実態を話し合い、これからの時代により求められ子どものカリキュラム、指導計画となるべく修正・加筆を行う。
教職員の連携	担任教諭、フリー教諭、パート教諭、バス運転手・添乗員と人数が増え、勤務体系の違いも生じている。その中で組織として理念や方針を共有し、コミュニケーションを密にして一丸となって幼児教育に当たりたい。

6. 学校関係者の評価

コロナ禍で4、5月の緊急事態宣言の時には、こいのぼりやプリント類を郵送してもらって、家庭での時間を有意義に過ごせた。密を避ける為に保護者が参加できなかった行事には動画配信があった事で子どもの姿を見る事が出来て良かった。そして、6月からは園が再開されたが、入園式や幼稚園祭、運動会、おもちつきに発表会等、子どもや保護者の事を考えて、臨機応変に変更をされながら、無事に一年を終えて頂いた事に感謝をしています。

7. 財務状況

公認会計士監査より、適正に運営されていると認められている。